

SDGs特集

シリーズ②

先月号では、SDGs（エスディージーブ）と智頭町第7次総合計画の将来像が近いことを説明しました。

未来都市の選定を受けたことで、さつごに住民自治を進め、SDGsの理念を住民と共有することで、総合計画の将来像の実現に向け取り組む必要があります。

本町の取組について

SDGsは、持続可能な取り組みを経済、社会及び環境という3つの側面においてバランスがとれ、統合された形で達成することを目指しています。

したがって、今回は経済、社会及び環境の側面でのどのような事業を行うのか説明します。

経済

地域資源を活用した産業促進を目指します。

具体的には「智頭林業」を継承する林業就業者の増加や、空き校舎を地元住民が活用した、小規模ビジネスの誘致やコミュニティビジネスを促進します。



8 働きがいも経済成長も



9 産業と技術革新の基盤をつくろう

社会

安心して生活でき、支えあうまちづくりを目指します。

具体的には、行政に無関係な若者を巻き込む仕組みづくりにより百人委員会の深化を図ります。また、女性や子どもに寄り添う体制整備を行います。



11 住み続けられるまちづくりを



16 平和と公正をすべての人に

環境

自然環境を活かしたまちづくりを目指します。

具体的には、町内新生児に森林に触れ合う機会を創出し、中高生にも森林・林業教育をサポートし、一般家庭等で搬出される生ゴミの液肥化の生ゴミリサイクルを推進していきます。



4 質の高い教育をみんなに



15 陸の豊かさも守ろう



11 住み続けられるまちづくりを

三側面の取り組み

経済、社会及び環境の統合的な取組みでは間伐材の施業面積の増加、コミュニティビジネスの推進により受入体制が構築され町民と行政の協働が可能となります。また本町の優れた自然環境を改めて町民に啓発することで景観、環境を意識した事業展開が図られます。

SDGs未来都市として

このように、新しい事業を実施するのではなく、現在まで取り組んできた事業の見直し、改善を図りながら目標の達成に向けて、町民と行政が共通の意識を持ち持続可能なまちとしていくとともに、SDGs未来都市に選定されたことを契機に、全国の中山間地域の在り方を示す大きな流れを作ります。



自然環境を活かしたまちづくり
木育キャラバンの様子